

1 環境保全活動に関する方針等

1-1 環境方針

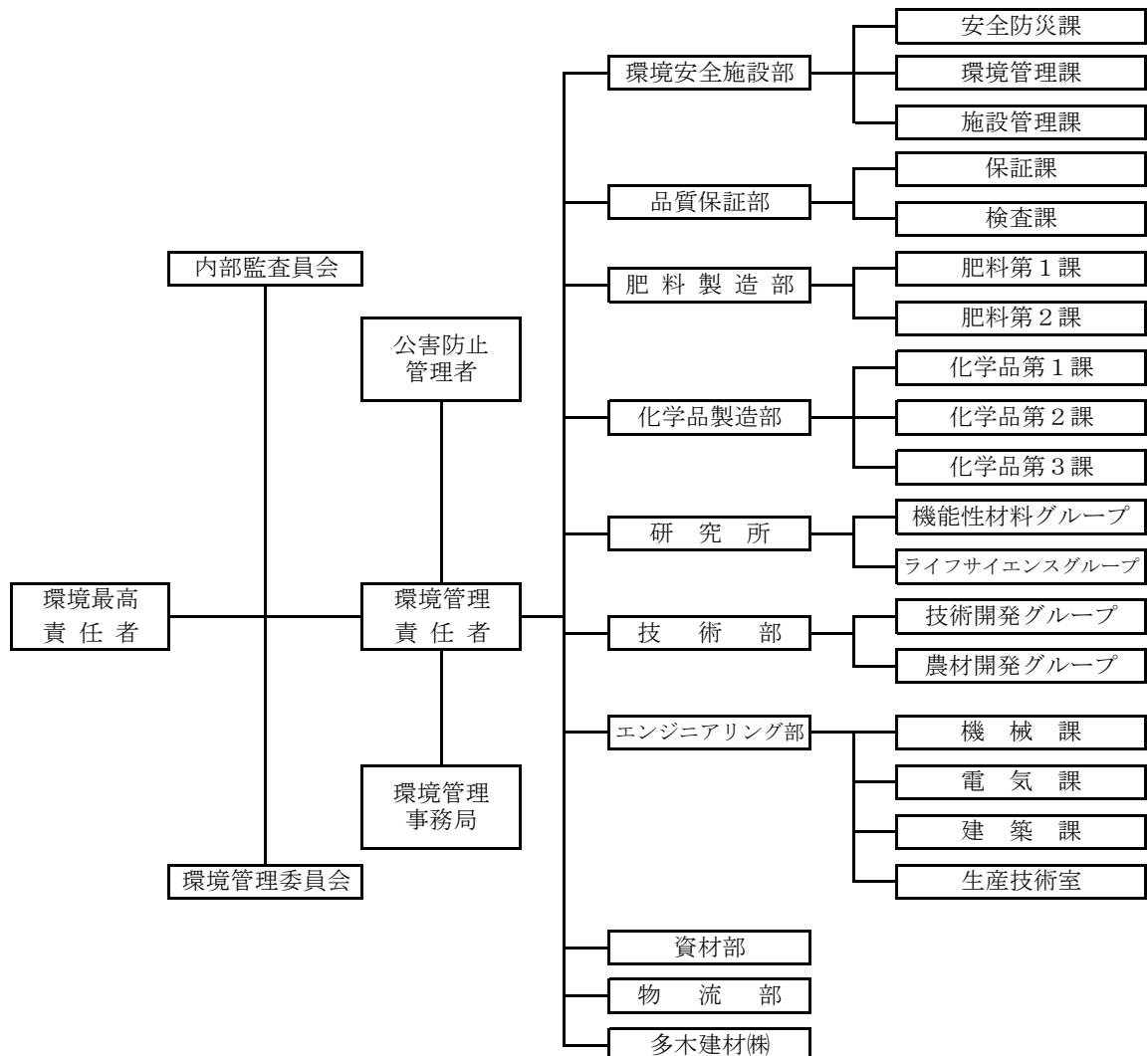
基 本 理 念

多木化学株式会社本社工場並びに多木建材株式会社は、持続可能な社会の実現を目指して、人びとの生活に欠くことができない肥料・水处理剤・機能性材料・石膏ボードの製造を通じて自然と環境を守り、社会との調和を大切にする事業活動を推進し、地球環境の保全に貢献します。

基 本 方 針

- 1 事業活動のあらゆる面で、環境影響の把握と環境負荷の低減を重視し、汚染の予防に努め、環境改善への取り組みを推進します。
- 2 気候変動の緩和と持続可能な資源利用のため、省エネルギー・省資源、廃棄物の削減その他の継続的改善に取り組みます。
- 3 環境関連法律・規制・協定、同意するその他要求事項を順守します。
- 4 環境目的・目標を定め、実施し、定期的な見直しを行ないます。
- 5 廃棄物の処理・再生に努め、循環型社会の形成に貢献します。
- 6 地域の環境保全に努め、地域社会との調和に努めます。
- 7 全従業員に対し、環境に関する教育及び意識向上啓蒙を行ないます。
- 8 環境方針は、文書により全従業員に周知させ、社外にも公開します。
社外より開示を求められた場合は、複写物を環境管理課より配布します。
社外への公開は、弊社ホームページ上にて行っております。

1-2 環境保全活動に関する組織体制



2 環境保全活動の実施状況等

項 目	取り組み結果	今後の取組計画
環境マネジメントシステム	令和3年6月に内部監査を実施。 令和3年7月、外部審査機関による更新審査に臨み合格。	ISO14001:2015認証の継続
環境コミュニケーション	C S R 報告書 2 0 2 2 の発行（令和4年4月）	C S R 報告書の発行継続
廃棄物対策	① 廃棄物発生量 令和3年は対前年比138%と増加。新型コロナウイルスの影響で落ち込んでいた製品の生産量回復で、排水処理汚泥などが増加したことによる。 ② 再資源化率 66%で前年より10ポイント低下。汚泥発生量の大幅増で再資源化量の増加以上に埋立処分量が増えたため。 ③ 汚泥削減策の検討を継続中	廃棄物排出量削減の検討継続 ・汚泥発生量の削減方法検討 ・廃プラスチックの分別強化による再資源化の推進
設備保全	臭気・粉塵の建屋外への飛散防止策の実施 ① 工場出入口シャッター更新 ② 集塵設備設置 ③ 有機肥料工場の蓄熱式脱臭炉定期点検 ④ 排ガス洗浄施設の更新・点検・整備・補修 ⑤ 定期的な場内外の臭気パトロールの実施 薬剤漏洩防止策の継続(対象設備の点検補修)	・臭気・粉塵の建屋外への飛散防止策の継続 ・環境対策設備の定期メンテナンスの継続 ・薬剤漏洩防止策の継続 ・有機肥料の臭気対策の検討
環境教育	環境関連教育 ① 環境ISO規格要求事項講習開催(外部講師) ② 加古川市環境保全研究会エコファクトリー部会主催講習会「廃棄物に関する最近の話題」受講 ③ 環境ニュースの配信による啓蒙活動 ④ 総合防災訓練の実施	・現場担当者、ISO順守評価者の環境法令理解度の向上策の実施 ・環境ISO認識教育の実施 ・総合防災訓練の実施
地域貢献 社会貢献 活動	工場周辺美化活動の継続実施 生物多様性保全活動の支援 ① 生物多様性ひょうご基金へ寄附を実施。 ② 工場敷地内で準絶滅危惧種であるフジバカマの栽培を継続中。 瀬戸内海への栄養塩類の供給 令和3年3月より窒素を含む処理水を放流中	・工場周辺美化活動の継続実施 ・生物多様性保全活動の支援継続 ・瀬戸法栄養塩類増加計画に基づく窒素放流 ・環境配慮製品の開発及び能力増強
エネルギー対策	① 二酸化炭素排出量 令和3年度は前年比13%の増加(2013年度比では、0.4%の減少)。新型コロナウイルスで停滞していた製品の生産量が回復し、エネルギーの使用量が増加したため。 ② エネルギー原単位 令和3年度は前年96.1%となった。生産量の増加に伴い生産効率が向上した為。	2030年温室効果ガス削減目標達成に向けた取り組みの推進 ・資源・エネルギーの使用量削減と有効利用 ・省エネ活動行動計画に基づいた省エネ活動の実施 ・エネルギー原単位対前年1%以上削減
自動車公害対策	物流のモーダルシフト 全出荷形態に占める「鉄道＋船輸送」の割合 令和3年度は、12.3%で前年より1.3ポイント増加	モーダルシフトの推進継続